

A. Komarowski のヴァイオリン協奏曲の奏法, 解釈について

Of Playing Method and Interpretation of A. Komarowski's "Violin Concert"

久 保 不 二 郎

ヴァイオリン協奏曲は、世界中その数では無数にあり、その種類も、バロック時代、ロマン派時代、近代、現代、エチウド、コンチェルト等と分れているが、この A. Komarowski の協奏曲は、その内のエチウド、コンチェルトとして、大変意義がある。今迄、日本では、この種類のコンチェルトでは、ザイツ、ジット、ローデ、ベリオ、ヴィバルディ等が使用されてきたが、この曲の楽譜を、3年程前、偶然に手に入れ、その後、何人もの学生に演奏させたところ、ヴァイオリンの技術、表現、楽曲分析等に大へん効果があった。まだ日本のステージで演奏家によるこの曲の演奏は、なされてはいない。

次に各楽章の小節番号を記して、奏法及び表現についてのべよう。先づ、第一楽章の前奏は、テンポの指図は **Allegro** で、**risoluto** (活発に、決定的に)で始る。5小節目の附点音符と7小節目の8分音符とのかけ合いを対比的に感じて、9小節目のリズムに入る。10小節目のメロディは弓の下半弓でピアノで始り、ビブラートは、余り荒くなく、ドルチェ、ビブラートをかける。このテーマの歌わせ方如何により、この曲の表情が決定づけられる。特に注意することは次のような諸点である。18小節や22小節等のプレスを充分とること。26小節目の16分音節は弓の中央の部分で、のびのびと、テヌート記号の所は、ビブラートをかけること。30小節よりは、気分を変えて、34小節目までに *f* の山場にもっていくこと。38小節よりの **Tutti** は、テーマをのびのびと奏いて、次の独奏部分へタッチする。46小節のアフタクトは、元気よく全弓で、上げ弓で始める。このテーマは、マーチ風に、はぎれよく奏くこと。59小節目の所は、表情豊かに、充分に歌わせる。68小節の16音符は、音を充分に、又テーマをはっきりわかるように奏く。72小節のフェルマータは、余り長くとりず、伴奏がすぐに入る。独奏パートは、8分音符と3連音符をはっきりと区別して奏くこと。76小節のアフタクトよりは、**Piu. agitato** で81小節の **Tutti** は、テーマをはっきり、83小節の伴奏リズムは、86小節までが8分音符、87小節目より93小節まで3連音符であるので、そのリズムに、充分にのる

こと。94小節の **accel** は、**dim** しながらであるので、弓をだんだん少なく使用するとよい。95、96と97、98の **Cresc. dim** は、強調して99小節よりのテーマは、アクセントとスターカットの交互に出てくる奏法で、弓の上半弓で、速に奏く。106の **rit** はごく自然に107にもっていく。107全弓でゆったりした気分で、次の **Kadenz** に入る。**Kadenz** 109より113の3拍目までは、切り気味に、次は逆に、長めに、特に5連音符の最後の音を注意する。117の7連音符、**accel** で上がる。Aの音はビブラートを充分にかけて、延ばす。そして **Kadenz** らしく下降して、最初のテーマに入る。139は最初の所と同じ奏法で、149の4拍目よりは152に入る。一つのきかけのメロディーであるので、ゆったりとした気分で長めに奏く。152よりの **accel** は、充分にきかせて、156の **Allegro, molto** に引きつぐこと。8分音符のアクセントとスタカットと158の3連音符を充分に音を出す。168は下半弓を使って169は全弓でアクセントを生かして、最後のコードは充分に音を響かせて終る。

第2楽章は、**Andante** のテンポで、出始めは、上げ弓で、**P**で静かに、ビブラートは、余り細くなく、1音づついいねいにかける。7小節目の4の指のフラジオレットは次の音の移行に注意。9小節のアフタクトは **Piu, mosso** のテンポに変わるが、余り早くなりすぎないように。音程が非常にむつかしいので、15まで注意が必要。22までは最初のテーマにもどるので、奏法は同じ。26の **Piu, mosso** は、テヌートの所を充分に音を出し旋律を出す。46以後は、消えて行くように、次第に弱く奏く。この楽章は、旋律をいかにうまく歌わせるかについて、手右の技術、特に手首及び指弓のあつかいを勉強にするとよい。

第3楽章はテンポは **Allegro** で、軽快に、リズムカルに、奏くと表情が生きる。最初のテーマは、上半弓で、動きを早く、特に装飾音の奏法に注意を要す。25より40までは、前と逆に少し、のんびりとした感じで音をつなぐと、次の41よりのリズムが生きてくる。61の重音は、はばひろく、69の16分音符は、生き生きと活気をも

って、余り早くならないように、77の音は、開放弦と2の指を充分に響かすこと。85より92までは気分をかえて、弓を手で持つ感じで、はずませて奏く奏法を使用。109よりはテンポが変わるが、112より独奏部分は、少し荒い感じで、はげしく、弓を弦にぶつけるような16分音符の奏き方をすると、はぎれがよくなる。137のスピッカットは、弓の中央部分で、次の Pizz は、Pなので、リズム、アクセントのみを生かす。143より150の accelは自然に。151のテーマは、a. tempo にすぐもどるように。175の Tutti と176とのかけ合いは、あざやかに。

185の16分音符は、音程がなつかしいので、特に注意。189は弓をとばして、余り大きくならないように。210はフィナーレであるので、はぎれよく、アクセントを強調して、終了する。第3楽章は、音程の変化とスピッカット奏法が非常に多く出るので、右手に余分の力があると必ず疲れが早く出る。左手の指のタッチを強く押えると音がはっきり出る。小生の使用してる指使いは、伴奏楽譜の方へ書入れているので、本紙のと比較しながら、演奏すると役にたつ。なほこの楽譜は、ペータ版より引用したものである。

KONZERT

für Violine und Klavier

VIOLINE

I

A. Komarowski

Allegro

Klav. f

5 *rit.* *a tempo*

10

16 *p* やはらい音で音の連続する

22 *f* *poco string.*

27 *f con forza* 熱情的に盛り上げて *poco rit.*

30 *a tempo*

33 *p* 弓の先で軽く *cresc. ten.* *f* 全弓ではつきり

37 *rit.* *a tempo* 6 *rit.* *a tempo*

48 *sf* *f* *risoluto* 音楽に元気よく

53 *mf* スラーとスタカトをはっきり弓は大半 *poco meno mosso* *espr.*

音を長めに表情豊かに全弓で

Violine

160

163

p cresc. 弓の先で、フジノレットをはつきり *mf*

166

f 弓のぎみに、弓の下半弓で

169 *piu allarg.*

全弓で、弓の
下半弓で、きつて
V. s. *f* コードを響かせる事

II

Andante

May. p *p* 上げろ、やほらく、呼吸に注意

5

p

9 *poco più mosso*

mf 弓がふいねなリ様に

14

rit. *III-* *Tempo I*

前節の身ぶりを變えて
ゆスリとのほし気味に、静かに消える

18

p *V.*

この音に注意

22

rit. *p*

次の音に対して呼吸をととのえる

Violine

26 *Più mosso*

29 *poco rit.* *a tempo*

35 *rit.* *Tempo I*

39 *rit.* *Tranquillo*

III

Allegro

気分を変えて

3の先でアクセントに注意
クレセントをはきり

Violine

31 *mf* *p* *mf*

36 *mf* *p* *mf*

41 *f*

47 *mf cantabile*

53

60 *f largamente* *rit.* *a tempo* *p dolce*

67 *con brio*

72

77

81 *cresc. molto* *f* *poco rit.*

全弓はつき

尺にひびかす

Variant

スタカトをはつき

Violine

a tempo

85 *mp* 3の中央ではずませて

90 *p* 音後に浮遊

95 *f*

101 *rit.*

106 *Poco meno mosso*

111 *ff con fuoco* 熱情的にはげしく、テーマをいかり

117 *p poco a poco cresc.*

123 *II f energico* 3の根元で

130 *Poco più mosso* pizz. この音にアクセント

137 *Variante* arco pizz. arco

143 *accet.* 4 arco pizz. arco *P* スティックカットがよい

150 *poco a poco cresc.* *rit.* *Allegro* *f* 長めに リズムを感じて

KONZERT

A. Komarowski

I

Violine

Allegro

Klavier

Allegro

f risoluto

5

mf

dim.

rit.

9

a tempo

p

13

17

p

21

f con forza

26

poco string.

poco string.

29

poco rit. *a tempo*

p *cresc.*

33

f

37 *rit.* *f* *a tempo*

41 *cresc.*

44 *rit.* *f* *a tempo* *risoluto*

48 *mf* *p*

53 *f* *mf*

76 *piu agitato*
p cresc. piu agitato
f

81 *poco rit. Allegro moderato*
f poco rit. Allegro moderato
mf

85 *p cresc. f*

88 *f mf f*

91 *dim.*

94 *accel.* *più mosso* *p*

98 *p*

102 *cresc.*

106 *rit.* *allarg. ten.* *ff* *Kadenz a piacere* *energico*

111 *accel.* *cresc.* *f*

117 *rit.* *string.* *ff*

121 *rit.* *p* **Tempo I**

126

131 *f* *mf*

136 *risoluto* *mf* *f*

142 *meno mosso* *espr.* *f* *risoluto* *sempre f* *a tempo*

148 *accel. molto*
cresc.
accel. molto
cresc.

153 *Allegro molto*
f
Allegro molto
f
mf

158 *f*
mf

163 *p*
cresc.
p
cresc.

167 *più allarg.*
f
più allarg.
cresc.
ff

26 *più mosso*
p
pp
poco rit.
a tempo

30
p
pp

34
rit.
Tempo I
p

38
rit.
mp
rit.

43 *Tranquillo*
Tranquillo
p
pp
ppp
morendo

III

Allegro $\frac{2}{4}$
f *energico*

Allegro
f *mf* *f*

7 *mf* *p* *mf*

13 *f* *mf*

20 *f* *mf* *p*

26 *mf* *p* 4

31

mf *p* *mf*

36

p *mf* *f*

42

mf *f* *mf*

49

mf cantabile *p* *mf*

56

mf *p* *f largamente*

E.P. 12062

63 *rit.* *a tempo* *p dolce*

69 *con brio*

74 *cresc. molto*

80 *poco rit.* *f* *p*

85 *a tempo* *mp* *a tempo*

91

3 3 p

97

4 sf f

103

rit. 3 rit. mf

109 Poco meno mosso

Poco meno mosso ff con fuoco

115

3 f

121

p poco a poco cresc.

p poco a poco cresc.

125

f energico

129

f *mf* *mp*

134

Poco più mosso *pizz.* *p* *arco* *p*

Poco più mosso

139

pizz. *arco* *accel.*

poco a poco cresc. *accel.*

poco a poco cresc.

144

1 2 3

150 *rit.* Allegro *f*

rit. *f* Allegro *f* *mf*

155

mf cantabile *p*

161

4 4 4

167

3 3 3 3

f largamente

173 *rit.*

179

184

189 *più mosso*

195

201

207

Allegro molto

212

217

222

rit.

ff

E. P. 12062